横浜市立中丸小学校
平成３０年度　学力向上アクションプラン

1 子どもたちの姿と学校の状況、地域の実態

子どもたちの姿（学習状況調査等の実態も踏まえて）

○落ち着いた家庭環境に恵まれ、学区内に子どもの遊び場があり生き生きとしている。
○素直な子が多く指導したことが浸透していきやすい。友達と相互に関わり合うことができる。
○「家庭学習ばっちりん週間」など学校の取り組みに対して家庭も協力的である。家庭と学校とで連携しながら家庭学習に取り組むことができる環境も、学力層 A,B の多さにつながっている。
○学んだことを活用するなどして課題解決に当たること、自分たちで新しいものを創造していく力を、高めていく必要がある。
○配慮を要する子どもたちへ、それぞれに合った支援が考えられている。

学校の状況、地域の実態

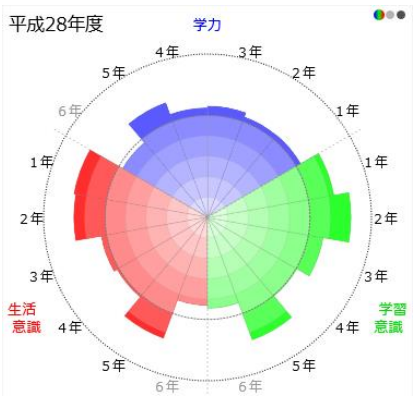
○職員間の意見交換や交流は活発であり、向上心をもって協力して職務に当たっている。
○授業研究にも熱心に取り組み、研究活動の充実のために研修を行っている。
○地域の中に安心して子どもが遊べる公園や、市体育協会登録団体である総合型地域スポーツクラブがあり、多くの子どもたちが校内外で関わり合っている。
○地域には豊かな経験や知識をおもちの方が多くお住まいで、温かく見守ってくださっている。

2 今後３年間の方向（中期学校経営方針）

○「子どもたちが、自分の育ちを実感できる学校」の実現に向かって、全職員で次の目標に取り組んでいます。
・子どもたち一人ひとりのよさを理解し、心を通い合わせながら、安心して過ごせる学校生活づくり、居場所づくりを進めています。
・子どもが意欲をもって学習活動に取り組み、学び方を身につけ、「できた」「わかった」という成就感を味わえる授業をしています。
・子ども同士のつながりを深める学級活動、異年齢集団活動、児童会活動を工夫して行い、よりよい人間関係を築いています。
・中学校ブロックや家庭・地域・関係機関との連携を深め、社会の要請や信頼に応える教職員集団を目指して自己研鑽に励んでいます。

3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

（1）学力の概要と要因の分析



どの学年も横浜市の中では、平均以上の学力であるといえる。平成２８年度と比較すると、学習意識・学力の伸長が見られる。日々の授業と家庭学習をしっかりと行っていくことが、学力の向上につながっていくといえる。しかし、全体の平均として見るだけでなく、個々の児童の実態を見取り、配慮していくことも必要である。
学校全体として授業においても、家庭学習においても意欲的に学ぶことができている。

（2）教科学習の状況

○国語科：全体的に「書く力」に関してはしっかりと身に付いてきている。それに対し文章を読み、そこに書かれている内容を正確に捉える「読解力」に関しては課題があると言える。
○社会科：「社会的事象についての知識・理解」に関しては身に付いているといえる。それに対し「観察・資料活用の技能」に関しては課題があると言える。
○算数科：全体的に「知識・理解」に関しては、力が身に付いている。今後は、その身に付いた力を活用する「数学的な考え方」に関しては課題があると言える。
○理　科：「知識・理解」「観察・実験の技能」に関しては、平均以上の力が身に付いているが、「科学的な思考・表現」に関しては課題があると言える。

４ 平成３０年度　目標と具体的方策

平成３０年度　目標

関わり合いの中から自ら学びとろうとする学習態度を育み、
成就感を味わえる授業の実現を目指す

～　見通しをもつ　筋道を立てて考える　粘り強く取り組む　伝えあう　応用する
をキーワードとして～

（１）学校組織としての共通の取組

☆　子どもたちの学力向上に向けて　☆

1　基礎力を維持向上させる取り組みを行う
家庭との連携をはかる（「家庭学習ばっちりん週間」）
2　子どもが意欲的に学習するよさを生かし、「できる」「わかった」という成就感、成功体験を実感できる授業を展開する
3　授業内で関わり合いの場面をつくる。「伝え合う力」の積み重ねを生かすための、子どもの思いや願いが生まれる場の設定をする
4　だれにでも分かりやすく、安心して学習できる環境をつくる

☆　授業力向上に向けて　☆
～教員の授業力向上や相互に支え合う組織をめざして～

○中規模校の特徴を生かした、全体で取り組む重点研究会、年次研修研究授業、指導法情報交換会
○小・中・高学年各ブロックの研究会、学年研究会
○若年層職員による企画で開かれる学習会・メンターチーム「中丸塾」

（２）学年・教科等としての取組

各学年の実態に合わせたキーワードを軸とした学習活動の展開

個別支援学級
○個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づいたスモールステップの学習活動で、着実に学力・生活力をつける。
○学習の流れを示すことで見通しをもたせ、主体的に学習に取り組めるようにする。
○成功体験や成就感を積み重ねることで生活や学習に意欲をもたせ、将来の自立を目指していくようにする。
○豊かな関わり合いのために、読書や読み聞かせ、言葉の学習を通して、気持ちや考えを伝えるための語彙を増やし、自分の思いを相手に伝えられるようにする。

１学年
○朝学習や家庭学習を活用し、基礎学力（読む、書く、計算等）を丁寧に反復指導し、定着を図る。
○すべきことが分かりやすい短い指示や、視覚支援の工夫を心がけ、見通しをもって最後まで粘り強く学習に取り組めるようにする。
○自分なりの思いや願いをもって学習に臨み、友達や身近な人と関わり、伝え合いながら、楽しく課題解決に向かうことができる場を設定する。

２学年
○基礎学力（読む、書く、計算等）を丁寧に反復指導し、定着を図るとともに、家庭と連携しながら普段の生活の中で既習事項(時刻と時間・長さ等)の定着を図っていく。
○関わり合いを生むような学習場面を設定し、互いに学び、高め合えるようにする。
○身近な問題の解決に向かって、自分の思いや願いをもち追究する意欲や態度を育てる。

３学年
○情景を想像したり、物事を比べたり、自分の経験と照らし合わせたりしながら、丁寧に文章の内容を読み取る学習を行う。
○朝学習や家庭学習を活用し基礎学力の定着を図る。（読み、書き、計算の確実な定着）
○身の回りの事象に興味を持ち、進んで調べ、表現する。そのための場を設定する。

４学年
○家庭学習を通して基礎・基本の定着を図るとともに、自分の課題を把握し、めあてをもちながら意欲的に学習に取り組む態度を育てる。
○学習の中で、話し合いなどの言語活動を充実させ、相手意識をもって聞く態度や、自分の考えを明確に伝える表現力を育てる。
○体験的な活動の機会を確保し、学習したことを生活の中で関連づけ、活用する力を育てる。

５学年
○家庭学習を通し、基礎・基本の定着を図るとともに自分の課題を把握し、めあてをもちながら意欲的に学習に取り組む態度を育てる。
○授業の中では、相手意識をもち、伝え合う活動を充実させることにより、自分の考えを明確に話したり、相手の考えを受け入れつつ、さらに考えを深めようとしたりする意欲と表現力を育てる。

６学年
○家庭学習を通して、学習内容の反復を継続して取り組めるようにし、基礎・基本の定着を図る。
○教科間や、前学年のつながりを感じながら学ぶことで、広いものの見方や考え方ができる力を育てる。
○日々の学習の中で互いの意見をつなげながら考えられる言語活動の場面を設定し、言語能力の向上を図る。